

外国語(英語)科学習指導案

1. 指導日時： 平成 27 年 11 月 20 日(金) 6 時限目
2. 指導学級： 第 2 学年 4 組
3. 教 室： English Room
4. 教 材： Unit5 Dialog (textbook: NEW HORIZON English Course 2 p.51)
5. 授業時数： 全 6 時限中の 2 時限目

6. 研究の検証について

6.1. 学校、教科及び授業者の研究課題

6.1.1. 学校目標に基づく研究課題

本校の今年度の重点目標には、『学力の定着、生活習慣の確立、人間関係や困難を乗り越えるコミュニケーション力を養う。』と『基礎・基本の習得、思考力・判断力・表現力等の応用力、学習意欲の定着と育成を図る。』が挙げられている。

各課題へのアプローチとして私は、“自ら学ぶことができる生徒”の育成を目指し、授業を展開している。その条件として、以下の2点を考えている。1点目は自らの最適な学習方法を身につけていること、2点目は自己評価できることである。普段の授業から、計画を立てて学習することと振り返りをして自らの成功体験を肯定し、間違えたところは反省することを通して特に後者の“自己評価できる”生徒の育成に努めている。

6.1.2. 教科目標に基づく研究課題

本校英語科の今年度の教科重点目標のひとつに、ICTの活用が挙げられている。ICTの活用に関しては、“授業にICTなどが活用できる方法を引き続き研究する。”、“ICTなどが活用できるようにEnglish Roomの充実を図る。”、“デジタル教科書の活用について研究する。”など多くの研究課題がある。ICT教材は、視覚に訴えることで生徒の視線・意識を前に向けることが出来る。また、今回の授業で用いる東京書籍のデジタル教科書は、ピクチャーカードやフラッシュカードの機能も充実し、使用方法を誤らなければとても良い教材であるといえる。

しかし、ICT教材に頼りすぎると、教員がICT教材を用いて、講義・解説をする一方通行的な授業になりがちで、本来の英語の授業のやるべきこと(学習指導要領に示された目的である“積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成”)が疎かになりがちである。よって、ICT教材を適切に活用しつつ、生徒が出来る限り多く、英語を使う機会を増やす授業を行う。

6.1.3. 授業者の研究課題

普通の授業では、音読・暗唱を重視している。音読のプロセスは、単語、文法、意味、談話構造、押韻、韻律などの理解、ならびに理解したものを音声として再生する能力などが総合的に関与している(池田、竹内 2002)ため、音読がコミュニケーションに必要な英語基礎力の育成方法と考えている。

また、音読だけで足りない部分を、竹内(2007)で示された音読+@などを参考に補充するよう心がけている。それが、①暗写：和文をもとに英文を思い出し、そのままノートに再現していく方法、②形式操作：英語の文章の「書き換え」(疑問文にしたり、受動態にしたり)を行う方法、③表現練習：文章の一部を変えて(例えば主語を”I”から”Haruka”に替えるなど)、自分やクラスの友人のことを表現してみる方法などである。

6.2. 教材観

本単元は、住民として日本に暮らす外国人たちが直面する様々な問題について考える場面設定になっている。文法面ではif節、that節、when節、because節といった接続詞が導入される。1つの文の中に主語や動詞が1つずつだった今までと違い、”、(コンマ)”なども使いながら長い文章を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりするので十分に主語と動詞の関係なども把握させながら指導していく必要がある。

7. 指導および評価計画

7.1. 単元の目標

- (1)if節、that節、when節、because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて表現ができる。
- (2)新聞記事を読んで、内容を理解することができる。
- (3)投書の意見を読んで、内容を理解することができる。
- (4)新聞記事を読んで、自分の意見を簡単にまとめたり、書いたり、発表したりできる。

7.2. 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
<コミュニケーションの継続> ①間違いを恐れず、身振り手振りを交え、積極的に自分の考えなどを話している。	<適切な発話> ①場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 <適切な筆記>	<適切な読み取り> 英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。	<言語についての知識> ①If節、that節、when節、because節を用いた文の形・意味・用法を理解している。

<言語活動への取り組み> ②読み手が理解しやすいように、書いたり、書き直したりしている。	②他人の投書に対して、賛否に加えてその理由を簡単に書くことができる。		②基本的なイントネーション、強勢などに気をつけて英文を話している。
---	------------------------------------	--	-----------------------------------

7.3. 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	生徒が学習する内容	主な評価規準と評価方法
第1時	Starting Out(p.50) ○本単元の題材内容を知る ・広報誌の記事やタイトルについて学ぶ ○教科書の内容を理解する ・新出語句、連語等の意味や発音を確認 ・基本表現の理解 ・内容の理解 ・音読・暗唱 ○本課で身につける表現を知る ・if 節の形・意味を知る ・英語劇のロールプレイ	D①…後日、ペーパーテストを行う B①…ロールプレイの発表(観察して評価)
第2時 (本時)	Dialog(p.51) ○場面の理解とモデル対話の理解 ・新出語句、連語等の意味や発音を確認 ・基本表現の理解 ・内容の理解 ・音読・暗唱 ○本課で身につける表現を知る ・that 節の形・意味を知る ・英語劇のロールプレイ	A①…ペアワーク、グループワーク (活動の観察) B①…ロールプレイの発表(観察して評価)
第3時	Reading for Communication 1 (p.52) ○新聞記事の理解(教科書内容の理解) ・新出語句、連語等の意味や発音を確認 ・基本表現の理解 ・内容の理解 ・音読 ・本文の内容確認(True or False (以下 TorF)) と英問英答	C…TorF や英問英答で教科書の内容理解を口頭で問い、更に後日、同レベルの英文にてペーパーテストで理解力をはかる

	<p>○本課で身につける表現を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ when 節の形・意味を知る ・ 接続詞を用いた英文を書く 	A②…観察とハンドアウトの提出
第4時	<p>Reading for Communication 2 (p.53)</p> <p>○投書の内容理解(教科書内容の理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新出語句、連語等の意味や発音を確認 ・ 基本表現の理解 ・ 内容の理解 ・ 音読 ・ 本文の TorF と英問英答 <p>○本課で身につける表現を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ because 節の形・意味を知る ・ 英語劇のロールプレイ 	C…TorF や英問英答で教科書の内容理解を口頭で問い、更に後日、同レベルの英文にてペーパーテストで理解力をはかる
第5時	<p>Review</p> <p>○本課で学習する表現の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主節と従属節を正しく組み合わせる <p>○本課で学習した内容の writing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書での活動 ・ ハンドアウトでの自己表現 	B②…観察とハンドアウトの提出
第6時	<p>Review2</p> <p>○教科書暗唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.50 と p.51 の暗唱を行う <p>○プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の writing を発表する 	<p>D②…1対1での観察</p> <p>B②…観察</p>

8. 本時の展開

8.1. 本時の目標

- ・ that 節を用いて、コミュニケーション活動ができる

8.2. 本時の評価規準

- ・ that 節を用いて表現ができる
- ・ 積極的にグループ活動をして、コミュニケーションをとることができる

8.3. 本時の展開

時間	生徒の学習活動	指導内容及び指導上の留意点	評価規準及び評価方法
10分 Warm-up	<p>前時に決められた生徒の代表により挨拶をする。</p> <p>T: Hello, everyone S: Hello. T: I'm great. How's everyone else doing? S: I'm good. T: What day is it today? S: It's Friday. T: Today is October what? S: 20th, it's October 20th. T: Have a seat, everyone. 教員との会話をする。 T: Time to rise, everyone. S: OK. 教員との会話をしながら問いに答える。 例 1) What do you want to be in the future? Why? 例 2) Which season do you like? Why? 例 3) A hard round fruit that has red, light green, or yellow skin and is white inside.</p>	<p>生徒を先生役にして前で挨拶をさせるようにしている。今年度の目標として、全員が一度は前に立って、先生役ができるようになることである。</p> <p>最近では簡単な質問に加えて、why?と行ってさらに説明を求めること(例 1、2)や例 3)のように英英辞典を用いて簡単な英語で、既習単語を推測する練習を行い、表現の幅を増やす練習をしている。</p>	
10分 導入	<p>T: Please repeat after me. English lesson is interesting. S: English lesson is interesting. ハンドアウトの1～7の文を読む。 I think that もしくは I don't think that をつけてハンドアウトの1～7の文を読ませる。</p>	<p>that 節の導入をオーラルで行う。</p> <p>ハンドアウトを読み、文の意味を理解させる。 声をしっかり出させて、I think that なのか I don't think that なのかはっきり言わせる</p>	
15分 本文	<p>基本表現を板書したあと、教員の文法説明を聞き、ハンドアウトを使ってペアワークをする。</p>	<p>ペアワーク中は机間指導をし、ペアワーク後、数ペアに</p>	<p>A ①… ペアワーク、グル</p>

	教科書本文の内容を理解する。 音読する。	発表させる。 リピーティングを行う。	ープワーク (活動の観察)
12分 練習	12月の市内の英語フェスティバルで行う桃太郎の英語劇の練習をする。 グループワークで練習をする。 D: Hey, <i>Momotarou</i> . Where are you going? P: I'm going to <i>Onigashima</i> . D: Really? I hear that <i>Oni</i> is strong. P: Sure. But I am stronger than <i>Oni</i> ! B: Muu. I think that <i>Oni</i> is scary... P: No worries! Let's go together! I'll give you this <i>kibidango</i> ! B: Of course. 前に出てきて発表する。	机間指導を行い、アドバイスを をする。	B①…ロール プレイの 発表(観察し て評価)
3分 本時の 復習 まとめ	that 節(目的)について復習をする。 振り返りを書く。 次回の授業の連絡を聞く。 最後の挨拶	板書等で確認を行う。 次回の連絡をする。	

9. 判断基準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A①】

B:グループワークで、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

*これまでの活動・今後の活動でも常時Bの状態であれば、Aとして評価する。

*上記の基準に到達しない生徒への手立て

→机間指導を行い、読み方等の指導をするためにグループワークやペアワークにて、個別に関わり、読めるように指導していく。

【外国語表現の能力 B①】

A:that 節(目的)を用いて、正しい表現で会話をすることができる。

B: that 節(目的)を用いて、会話ができる。

* 上記の基準に到達しない生徒への手立て

→机間指導で正確に that 節(目的)を用いた表現ができるように個別や、ペアワークやグループワーク中にも指導をし、後日、桃太郎劇を通して、正確に用いて会話することができるかどうか確認する。

10. 板書計画

プロジェクター用 スクリーン	Friday November 20 sunny
	Today's goal • that を使って自分の考えを言える • 桃太郎

11. 使用教材

• 教科書、デジタル教科書、ノート、ハンドアウト(B51枚)、お面

12. 参考・引用文献

池田真生子, 竹内 理 (2002). 「音読による総合的な英語能力の測定：実証的研究」. LET 関西支部研究収録 9.

竹内 理 (2007). 『達人の英語学習法：データが語る効果的な学習法とは』 東京：草思社.